

人権啓発作品を  
紹介します



人権作文  
最優秀賞

中学生の部 大東中学校三年

中川 理乃さん

「友達へ感謝」

友達は大切にすべきだと思います。

友達と会える楽しみがあるから勉強が苦手でも学校へ行きたいと思えるし、友達がいるから部活のつらい練習もやっつけてこれたし、親にも言えないことが友達には言えるときもあります。

しかし、私は、人を信じるということがなかなかできないし、ひとみりりということもあって友達をつくるのがどちらかというと苦手です。小学校の時はそつでもなかったのですが、中学生になって

環境もがらりと変わり、人と接することが苦手になりました。だから、今いる友達が自分からいつか離れていってしまうのではないだろうか、など考えてしまつて、つい不きげんな態度をとつてしまつたり、八方美人になつてしまつたり、思うようにいかないことが多く、一、二年のころは、いらいらしてしまつことがよくありました。相手の顔をうかがつては、思つていないことに賛成したり、とにかく素でいられない一、二年でした。

それが、三年生になつて変わりました。きつかけは、部活です。私は陸上部に入つていて、リレーメンバーでした。陸上は夏季標準タイムという最初から決まつてあるタイムをきらなければ一年間で一番大きい試合の夏季大会に出場できません。リレーメンバーは、一年生から、ずっと同じメンバーで、今年こそは絶対夏季標準タイムをきつて絶対夏季大会に出るといふ目標がありました。リレーメンバーは、学年関係なしで、走りの速い人、四人が入れます。しかし、私は、後輩にタイムを越されました。タイム的に見ると私はリレーメンバーから外されます。その話が先生からとうとうもち出されました。私は覚悟はしていたけれど涙が

あふれてきて、泣いてしまいました。その時、メンバーのみんなは、私より速い後輩がいるのに、私を入れたこの四人のまま走りた。と言つてくれました。そのみんなの言葉で私はリレーメンバーに残ることができました。本当に感謝しています。しかし、夏季標準タイムを切るための最後のチャンスの試合でリレーメンバーのうち、二人が足を痛めました。そして、メンバーチェンジの案が出されました。リレーメンバーの目標は夏季標準タイムを切ることであったのでメンバーチェンジが成立してしまいました。その二人の分は後輩が走るようになりました。私は、以前、自分がメンバーから外されそうだったとき、みんなが今まで通りのメンバーで走りたいと言つてくれたのに、今回のメンバーチェンジの時、私は二人のために何も反対意見を言うことができませんでした。この時私はとても後かいました。もしあの時私が速やかにメンバーから外れて、タイムの速い後輩と交代していたら、今頃、みんなは夏季標準タイムを切っていたかもしれない。あの時に自分がいさぎよくメンバーからはずれておけば…。と何度も思いました。後悔しても、もうおそいので、二人と、絶対夏季標準タイム

を切るね。という約束をして、ラストチャンスの試合に出ました。絶対に切つてやるといふ気持ちで試合に出場しました。しかし、切れませんでした。その瞬間あの後悔で頭はいっぱい二人にもうしわけない思いでいっぱいでした。ただ涙が流れてくるだけでした。その時、二人は、

「私たちは後悔してないよ。最後まで走つてくれてありがとう。」と言つてくれました。私たち以上に悔しいかもしれない二人がそんな言葉をくれました。私はこの時、仲間、友達は本当に大切だと思いました。大切にすべきだと思いました。人の顔をうかがうだけの友達ではなく、涙を見せ合える、はげまし合える、支え合える友達は本当に大切だし、必要だと思ひました。このように思えたのは多分初めてです。仲間へ感謝して、これからもこの経験を心において、仲間、友達を大切にしていきます。人をもつと信じてみようと思ひます。八方美人にはもうならないように一人一人と向き合つて、一人一人を大切にしていきたいです。

を切るね。という約束をして、ラストチャンスの試合に出ました。絶対に切つてやるといふ気持ちで試合に出場しました。しかし、切れませんでした。その瞬間あの後悔で頭はいっぱい二人にもうしわけない思いでいっぱいでした。ただ涙が流れてくるだけでした。その時、二人は、